

②4 選択緘黙・社交不安障害

117A18

社交不安障害と選択緘黙は「不安」によって話すことができなくなるという点で共通しています。
生まれつき「不安・怖がり」な人がいるということを知っておくのは重要かもしれません！

118回では「社交不安障害の治療が選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)+ベンゾジアゼピン系抗不安薬」ということが問われそうです。

18 7歳の女兒。就学してから2か月間、教師や児童と会話をしないことを指摘され、心配した両親に連れられて来院した。幼稚園でもほとんど発語はなかったが、身振りでコミュニケーションはとれていた。幼少時から現在まで、家族とは普通に会話しており、知的な遅れは目立たない。神経診察を含む身体診察に異常を認めない。

考えられるのはどれか。

- a 吃音症〈小児期発症流暢症〉
- b Tourette 症候群
- c 学習障害
- d 選択緘黙**
- e 素行症



気質の問題



「怖がり・不安」の気質



遺伝的に恐怖や不安をコントロールしにくい神経回路

選択緘黙 (場面緘黙)

幼児期から発症して小学校に入学する頃に気づかれる。

- ✓ 聴力は正常で言語理解の障害もない。
- ✓ 吃音症などで行われる発声練習は必要ない。



不安のために心も身体もカチンコチン

話せない・動きが固まる

- ✓ 家などの安心できる環境では別人のように喋る。

遊戯療法・箱庭療法

言語を必要としない遊びによって、子どもに「こころの世界」を表現させる心理療法が行なわれる。



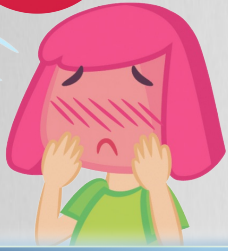
113E19

19 社交不安障害の患者の訴えとして特徴的なのはどれか。

- a 「怖いので飛行機には乗れない」
- b 「世間の人々から嫌われている」
- c 「明日にも何か大変なことが起こる」
- d 「人ごみや公共の場所に行くと不安になる」
- e 「人前では緊張して思うように話ができない」**



性格の問題



ただの「恥ずかしがり屋」



気質の問題



「怖がり・不安」の気質

恐怖

不安

遺伝的に恐怖や不安をコントロールしにくい神経回路

選択緘黙 (場面緘黙)

幼児期から発症して小学校に入学する頃に気づかれる。



不安のために心も身体もカチンコチン

話せない・動きが固まる

- ✓ 聴力は正常で言語理解の障害もない。
- ✓ 吃音症などで行われる発声練習は必要ない。



✓ 家などの安心できる環境では別人のように喋る。

社交不安障害

思春期に発症する。

人の前で不安になると赤面・発汗・ふるえなどが出る。



そうなってはいけない
気づかれてはいけない

他の人々から注視される状況を避ける。

選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)



ベンゾジアゼピン系抗不安薬

遊戯療法・箱庭療法

言語を必要としない遊びによって、子どもに「こころの世界」を表現させる心理療法が行なわれる。



認知行動療法

不安や恐怖が引き起こされる状況にあえて身を晒して、徐々に慣らしていく曝露療法などが行われる。

